

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ボムリエ サード			
○保護者評価実施期間	R7年 1月 25日 ~ R7年 2月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○従業者評価実施期間	R7年 1月 25日 ~ R7年 2月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	16名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 1日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用定員を遵守し、適正な空間と適正な人員配置により余裕のある安全な環境の中で療育を提供している。また、視覚的支援を取り入れ、事業所内の構造化を行っている。	利用者数が多く、滞在時間が長くなる曜日や長期休暇は、体育館を借りたり、お出かけなど利用児童が安全に体を動かすことができる設定療育・レクリエーションを取り入れている。また、児童を叱らなくていい環境づくりを行い「走らない！」ではなく「この椅子に座ってね」など肯定的な言葉掛けをしたり、児童が気になって集中できないものを整理整頓している。	現状を維持し、適正な人員配置とスタッフ教育を行う。スタッフ教育を継続し、視覚的支援を徹底する。
2	個々の児童に対しスタッフ全員で会議を行い、情報の共有や計画立案・支援プログラムの決定を行っている。また、日々の療育で気になったところや変化を業務後に話し合う時間を持ち、スタッフが共通認識をもって療育にあたることを徹底している。	始業時のミーティングだけでなく、終業時にも振り返りのミーティングを行い、児童の情報共有を行っている。また、保護者からの連絡事項や相談に対しても複数の職員で話し合い、アドバイスや返答を行っている。	モニタリングや個別支援計画の為の保護者面談等を複数職員が担当することで保護者の相談窓口を増やすし、相談しやすい環境づくりを行う。児童一人一人の個性に合わせた療育や支援方針を考え、保護者とともに成長を見守りつつ必要な支援を行う。
3	保護者・学校・医療機関・他事業所・児童相談所・市役所などと連携を密に測り、支援ニーズの高い児童（個別サポートI、II、III）の支援の受け入れを行っている。	他機関連携を意識し、常日頃から児童を第一に考え保護者とともに支援の方向性を話し合い、同じ視点で支援にあたっている。多機関との連携を積極的に行い、利用児童のより良い暮らしの為に、情報共有や会議の開催などで連携を行っている。	個別サポートI II III以外の児童に対しても他機関連携を必要時行い、より良い療育の提供を目指す。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われる	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害児サービスから障害者サービスへ移行する児童が少ない。	開所後5年で、低学年から利用を開始した児童がほとんどであり、中高生の利用児童が少ない。	外部研修に参加したり、障害者の通所サービス事業所等と密に連携を取り、18歳以降の通所先に繋げられるようにする。
2	地域との交流が少なく、イベントなどに地域住民を招待するなどの機会が少ない。	高齢者が多かったり障害を公表していない児童・保護者も多いため、地域に開かれた事業所にするには慎重にならざるを得ない。	児童の個人情報や人権をしっかりと守ったうえで、児童が楽しみながら地域の住民と交流する機会が持てるようなイベント等を保護者等の意見を聞きながら検討する。
3			